



## 2020年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年5月13日

上場会社名 株式会社ホープ  
コード番号 6195 URL <https://www.zaigenkakuho.com/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 時津 孝康

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 大島 研介

TEL 092-716-1404

四半期報告書提出予定日 2020年5月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年6月期第3四半期の業績(2019年7月1日～2020年3月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年6月期第3四半期	8,082	388.6	82		75		50	
2019年6月期第3四半期	1,654	24.7	245		230		237	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年6月期第3四半期	9.03	7.94
2019年6月期第3四半期	42.52	

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、2019年6月期第3四半期は潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

2. 当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年6月期第3四半期	3,802	576	14.8
2019年6月期	2,743	527	18.9

(参考) 自己資本 2020年6月期第3四半期 564百万円 2019年6月期 518百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年6月期		0.00			
2020年6月期		0.00			
2020年6月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている予想からの修正の有無: 無

### 3. 2020年6月期の業績予想(2019年7月1日～2020年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,300	270.2	850 ~ 950	876.7 ~ 991.6	840 ~ 940	781.1 ~ 886.0	600 ~ 675	693.9 ~ 793.1	102.91 ~ 115.78

(注) 直近に公表されている予想からの修正の有無: 有

業績予想の修正については、本日(2020年5月13日)公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年6月期3Q	5,576,800 株	2019年6月期	5,576,800 株
期末自己株式数	2020年6月期3Q	960 株	2019年6月期	516 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年6月期3Q	5,576,001 株	2019年6月期3Q	5,576,380 株

(注) 当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料における予測値及び将来の見通しに関する記述・言明は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営の内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は将来予測のいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

・業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(追加情報) .....	6
(セグメント情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間のわが国経済は、消費増税による個人消費の落ち込みや、新型コロナウイルスの流行拡大によるインバウンド需要の下振れを受けて、下降基調で推移しました。また、海外経済においても同様に、新型コロナウイルスの流行拡大による、世界的な経済活動の停滞への懸念から、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような環境の中で、当社は「自治体を通じて人々に新たな価値を提供し、会社及び従業員の成長を追求する」という企業理念のもと、2017年6月期以降を「第二創業期」と捉え、継続的な企業価値の向上を実現すべく、様々な施策を行っております。具体的には、広告事業を「利益創出事業」と位置付け、収益性の向上を主眼に置き、それに伴う組織体制の見直しや規模適正化及び業務効率化への取り組みを実行しております。メディア事業におきましては、「情報の最上流」という立ち位置の確立を目指して、行政マガジン「ジチタイワークス」を主軸とした多面的展開の促進による高付加価値なサービスの拡大を、エネルギー事業におきましては、当社の「成長エンジン」としてさらなる規模拡大と収益性の安定化を推進しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は8,082,069千円（前年同四半期比388.6%増）、営業利益は82,672千円（前年同四半期は営業損失245,149千円）、経常利益は75,958千円（前年同四半期は経常損失230,976千円）、四半期純利益は50,361千円（前年同四半期は四半期純損失237,126千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当社は「広告事業」、「メディア事業」、「エネルギー事業」の3区分を報告セグメントとしておりましたが、経営管理区分を一部見直したことにより、第1四半期会計期間より「メディア事業」に含めていた一部サービスを、報告セグメントに含まれない「その他」に変更しております。

以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## ① 広告事業

広告事業におきましては、自治体から様々な媒体の広告枠を入札により仕入れ民間企業に販売するSR（SMART RESOURCE）サービス、また、主に自治体が住民向けに発行する冊子について、当社が広告枠を募集し、自治体には冊子を無料で協働発行するマチレットを提供しており、事業規模の適正化を推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,244,955千円（前年同四半期比13.4%減）、セグメント利益は64,612千円（前年同四半期はセグメント損失11,475千円）となりました。

## ② メディア事業

メディア事業におきましては、当社が今まで培った自治体とのリレーションを活用し、自治体と民間企業のニーズを繋ぐBtoGマーケティングの積極的な展開や、当社オリジナルのメディアとして、自治体職員の仕事につながるヒントやアイデア、事例などを紹介する冊子「ジチタイワークス」の発行を継続的に行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は53,567千円（前年同四半期比10.5%増）、セグメント損失は2,795千円（前年同四半期はセグメント損失12,651千円）となりました。

## ③ エネルギー事業

エネルギー事業におきましては、「電気もジェネリック」という新たな価値の提案により、自治体の経費削減を支援していきたいという思いのもと、電力販売事業である新サービス「GENEWAT（ジェネワット）」を推進し、順調に販売額を拡大しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は6,774,260千円（前年同四半期比3937.9%増）、セグメント利益は250,705千円（前年同四半期はセグメント損失11,724千円）となりました。

## ④ その他

その他には、主にマチイロ・マチカゴなど他の報告セグメントに含まれないサービスを含めております。

当第3四半期累計期間における売上高は9,287千円（前年同四半期比2857.6%増）、セグメント損失は4,447千円（前年同四半期はセグメント損失31千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産合計は3,802,252千円となり、前事業年度末に比べて1,058,262千円増加しました。流動資産は2,772,326千円となり、前事業年度末に比べて488,616千円増加しました。これは主として売掛金が420,185千円増加、流動資産のその他が225,561千円増加した一方で、商品及び製品が198,659千円減少したことによるものであります。固定資産は1,029,926千円となり、前事業年度末に比べて569,646千円増加しました。これは主として無形固定資産が187,063千円増加、敷金及び保証金が387,499千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債合計は3,225,276千円となり、前事業年度末に比べて1,008,965千円増加しました。流動負債は2,383,928千円となり、前事業年度末に比べて404,300千円増加しました。これは主として買掛金が42,305千円増加、短期借入金が156,000千円増加、1年内返済予定の長期借入金が300,294千円増加したことによるものであります。固定負債は841,348千円となり、前事業年度末に比べて604,665千円増加しました。これは社債が100,000千円増加、長期借入金が504,665千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産合計は576,975千円となり、前事業年度末に比べて49,296千円増加しました。これは主として四半期純利益計上により利益剰余金が50,361千円増加したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前事業年度の18.9%から14.8%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年6月期の通期の業績予想につきましては、2020年2月3日に公表いたしました業績予想を変更しております。詳細につきましては、本日(2020年5月13日)公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、現時点では、新型コロナウイルス感染症及びそれに基づく緊急事態宣言等が当期の業績に与える影響は軽微であると考えておりますが、今後の動向に注視し、当社事業において公表すべき事項が発生した場合には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	494,773	526,425
売掛金	1,077,420	1,497,606
商品及び製品	629,230	430,571
仕掛品	213	7,777
貯蔵品	188	105
その他	84,577	310,139
貸倒引当金	△2,694	△299
流動資産合計	2,283,709	2,772,326
固定資産		
有形固定資産	7,424	9,995
無形固定資産	27,871	214,935
投資その他の資産		
敷金及び保証金	348,151	735,651
その他	90,717	85,498
貸倒引当金	△13,885	△16,154
投資その他の資産合計	424,983	804,995
固定資産合計	460,280	1,029,926
資産合計	2,743,990	3,802,252
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,370,493	1,412,798
短期借入金	200,000	356,000
1年内返済予定の長期借入金	86,658	386,952
未払法人税等	34,539	7,855
前受金	71,255	40,433
賞与引当金	18,823	6,321
その他	197,857	173,567
流動負債合計	1,979,627	2,383,928
固定負債		
社債	—	100,000
長期借入金	236,683	741,348
固定負債合計	236,683	841,348
負債合計	2,216,310	3,225,276
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	246,945	246,945
資本剰余金	200,745	200,745
利益剰余金	70,421	120,783
自己株式	△241	△888
株主資本合計	517,871	567,586
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	290	△3,094
評価・換算差額等合計	290	△3,094
新株予約権	9,517	12,483
純資産合計	527,679	576,975
負債純資産合計	2,743,990	3,802,252

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
売上高	1,654,084	8,082,069
売上原価	1,231,239	7,299,796
売上総利益	422,844	782,272
販売費及び一般管理費	667,994	699,600
営業利益又は営業損失(△)	△245,149	82,672
営業外収益		
受取利息	8	9
受取配当金	6	95
助成金収入	11,880	2,137
違約金収入	3,793	1,443
その他	451	768
営業外収益合計	16,140	4,455
営業外費用		
支払利息	968	5,302
支払手数料	950	5,672
その他	48	194
営業外費用合計	1,967	11,169
経常利益又は経常損失(△)	△230,976	75,958
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△230,976	75,958
法人税、住民税及び事業税	6,149	18,046
法人税等調整額	△0	7,549
法人税等合計	6,149	25,596
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△237,126	50,361

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

## (1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、広告事業、メディア事業及びエネルギー事業を主要事業と位置づけており、これらを基礎としたサービス別のセグメントである「広告事業」、「メディア事業」及び「エネルギー事業」を報告セグメントとしております。

## (2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、経営管理区分を一部見直したことにより、第1四半期会計期間より「メディア事業」に含めていた一部サービスを、報告セグメントに含まれない「その他」に変更しております。また、同様に全社費用の配賦方法を変更しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、当第3四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。当該変更による影響は軽微であります。

## (3) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類は、次のとおりであります。

報告セグメント	サービス名称及び内容等
広告事業	(SMART RESOURCE サービス) 広報紙広告・バナー広告等
	(SMART CREATION サービス) マチレット、mamaro
メディア事業	ジチタイワークス、BtoGマーケティング、自治体クリップ
エネルギー事業	GENEWAT



## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	計				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	広告	メディア	エネルギー	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,437,518	48,485	167,765	1,653,770	314	1,654,084	—	1,654,084
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,437,518	48,485	167,765	1,653,770	314	1,654,084	—	1,654,084
セグメント損失(△)	△11,475	△12,651	△11,724	△35,851	△31	△35,883	△209,266	△245,149

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にマチイロ・マチカゴなどのサービスを含んでおります。

2. セグメント損失の調整額△209,266千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用209,266千円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	計				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	広告	メディア	エネルギー	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,244,955	53,567	6,774,260	8,072,782	9,287	8,082,069	—	8,082,069
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,244,955	53,567	6,774,260	8,072,782	9,287	8,082,069	—	8,082,069
セグメント利益又は損 失(△)	64,612	△2,795	250,705	312,522	△4,447	308,074	△225,401	82,672

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にマチイロ・マチカゴなどのサービスを含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△225,401千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用225,401千円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。